

# エンジン IOTリフォーム事業を開始 消費電力の見える化など可能に

エネジック(浜松市、藤田源右衛門社長)は、4月からリフォーム事業でIOT機器をセットにした新サービスを開始した。コロナ禍による「おうち時間」の増加で住まいの快適さを求める需要が増える中、家電の遠隔操作が可能になるなど実用性の高さを提案し、リフォーム事業の拡大を図る。消費電力の見える化もできることから、原油価格の高騰の影響で電気料金の値上げが続く状況下で、電気代を節約したいという需要にも応える。

新サービスではパナソニック社製のIOT制御装置「AISEG2(アイセグ・ツー)」を使用する。エアコンや照明、テレビなどの家電についてスマートフォンの声による遠隔操作を可能にするほか、家全体の電力消費量を把握できるようにする。風呂や給湯器などのガス器具も接続でき、スマホを使って外出先から風呂のお湯は

りをするといった使い方もある。太陽光発電と蓄電池の自動制御機能も備え、天気予報で天候不順による発電量の低下が予想される場合、自動判断であらかじめ蓄電池に多めに充電する。

同社営業企画部の句坂幸治次長は、「浜松市は太陽光発電設備を設置済みの家が多く、最近蓄電池の問い合わせが増えているので、今後、売り上げ拡大が見込まれる」と話す。卒FITを迎えた場合に、発電した電力を自家消費で有効活用できることも提案していきたい考え。「蓄電池は家庭のBCP対策になる」とも指摘する。

サービスプランはアイセグ2の導入で消費電力を見える化する基本プランに、「+IoTプラン」「+脱炭素・レジリエンスプラン」「+コミュニケーション強化プラン」の3つの追加プランを用意する。+IoTプランでは家電や風呂などの遠隔操作が可能。+脱炭素・レジリエンスプランは、太陽光設備や蓄電池、EV充電設備を設置するも

の、+コミュニケーション強化プランではインターホンとスマホを連携させ、外出先でも来訪者の応対ができるようにする(6月にサービス開始)。今後、浴室や床などのリフォーム時にIoT設備の追加を提案していく。同社のリフォーム事業は年間約500件を受注しているが、句坂次長は「エア

コンの取り付けや給湯器の交換などあらゆる場面で提案していく。まずは年間50件の受注を目指したい」と展望する。